

きないほど、人々の生活は行き詰まっているのである。戦争を回避し、戦費を発展途上国の救済に振り向けない限り、サッダーム・フセインのような「英雄」が今後とも数多く出現するに違いない。

(みやじ かずお／在アルジェ海外調査員)

追記

(1) アルジェリアの左翼系独立紙 (Alger Républicain, 1990年10月13日号) は、湾岸危機の影響に関する政府高官の見解として、石油価格上昇の結果、90年の輸出収入が20億ドル増加する見込であり、貿易収支と政府収支のいずれも黒字に転ずる、と報道した。また、ドルの価値が10%ほど下落した結果がすでに不利に働いており、中長期的にみれば石油価格の急激な上昇よりも21ドルをこえる水準で安定することが望ましい。

(2) チュニジアに出張した折りに入手した同地発行の経済専門誌 (Economiste Maghrébin, 1990年10月3～17日号) によれば、湾岸危機の影響で90年次にチュニジア経済は約2億ディナール (1ドル=0.86チュニジア・ディナール) の損害を受けると推定される。これは国内総生産の約1.7%にあたり、その内訳は輸出減 (75、単位100万ディナール以下同じ)、対イラク輸出代金回収不能分 (34)、在外労働者国内送金減 (15)、直接投資減 (10)、クウェート基金からの融資減 (75) である。湾岸危機が91年中も継続すれば、損害は3億4500万ディナール、国内総生産の2.7%にまで増加すると見込まれる。

チュニジア

木村 喜博

イラクのクウェート侵攻がチュニジア経済に与えた被害は極めて大きく、その被害総額は1990年には1億6100万ドル、1991年には2億3000万ドルになるものと推計されている。

経済・大蔵大臣ムハンマド・ガンヌーシーによる議会への報告によれば、湾岸危機が与えるチュニジア貿易への損失は極めて重大である。クウェートとの貿易量は1989年に2300万ドルであったが、これと比較するとイラクとの貿易量はその額が大きく、チュニジアの輸入額は8000万ドルであった。そのなかには、チュニジアの化学工業で使用される原油と硫黄の購入が含まれている。

イラクからの1990年度の輸入額は1億1500万ドルになるものと予想されていた。これに対し、チュニジアからイラクへの輸出額は、1989年度に5200万ドルに達し、1990年度前半の輸出額は4600万ドルと推定されている。

また、すでにイラクと契約済みの取引額は1億1500万ドルに達し、現在輸出に用意されている品目は2650万ドルに達している。これは、歳出のみならずチュニジアの200の企業に損害を与えている。

また、チュニジアは、クウェートと緊密な関係をたもち観光、銀行業務、不動産などの分野で共同プロジェクトを計画し、クウェートのチュニジアに対する投資額は1億7300万ドルに達している。

またクウェートとの経済協力として26件の融資協定、総額4億3700万ドルが締結されている。このうち17件が完了し、9件が現在実施中である。

さらに、これに加えて、1990～93年に1億8400万ドルの融資が決定されていた。大臣によれば、クウェートにある「経済・社会発展のためのアラブ基金」の活動が一時停止すると、4億1400万ドルの借入れ資金が必要となる。

チュニジアでは今年度および来年度の歳出が赤字になることが見込まれるが、さらに共同プロジェクトの継続がきわめて困難になる。

以上の問題に加えて、チュニジアは、クウェート、イラクへの出稼ぎ労働者を多数抱えていることから、かれらが帰国することによって労働市場が圧迫されるとともに、年間575万ドルの送金収入がストップすることになる。

以上のような直接的な打撃に加え、長期的に、この湾岸危機がさらに悪化し国際市場とくに金融市場の混乱とインフレに巻き込まれて、チュニジア経済の成長率が鈍化することが避けられない状況にある。

[al-majalla, No. 555, p. 18の記事より抜粋]

マイナスの面とは反対の兆候も現われている。チュニジアは、年間約500万トンの原油を生産する産油国であり、原油の輸出によって年に5億8500万ドル（1989年実績）、輸出総額の約20%を稼いでいる。それゆえ、湾岸危機にともなう原油価格の高騰は、その分外貨収入の増加をもたらすであろうと期待されている。

(きむら よしひろ／調査企画室主任調査研究員)